■目標指標評価

［資料５］

【今後の対応】
令和３年度末に改定したマニュアルに基づき、住民が容易に閲覧できる情報提供を行う。

【今後の対応】
ホームページでの公開の仕方を含め、効果的な情報発信の方法について検討する。

【今後の対応】
受水企業に対し情報提供を行う場合には、受水企業が必要とする情報を整理し迅速に提供する。

【今後の対応】
連続かび臭測定装置の計測値を注視し、濃度に応じた活性炭注入を工事に実施する。

	取り組み項目	指　標	単位	優先性	R３【実績】	R４【実績】	R５【実績】	R７（目標）	R12（目標）	令和３年度 取組の状況、課題	評価	令和４年度 取組の状況、課題	評価	令和５年度 取組の状況、課題	評価	これまでの評価	評価と課題	今後の方針	担当課（係）
安全	水質管理の強化	水質基準適合率（用水）	%	↑	100	100	100	100	100	水質検査結果を浄水処理に適正に反映した。	◎	水質検査結果を浄水処理に適正に反映した。	◎	水質検査結果を浄水処理に適正に反映した。	◎	◎	水質検査結果を浄水処理に適正に反映した。	引き続き水質検査結果を浄水処理に反映できるように技術力の維持に努める。	浄水課（水質管理室）
安全	水質管理の強化	かび臭物質濃度水質基準比率年間平均値（用水）	%	↑	96	96	96	75	75	適切な臭気対策（活性炭注入等）を行い、臭気の低減に取り組んだ。	◎	適切な臭気対策（活性炭注入等）を行い、臭気の低減に取り組んだ。	◎	適切な臭気対策（活性炭注入等）を行い、臭気の低減に取り組んだ。	◎	◎	適切な臭気対策（活性炭注入等）を行い、臭気の低減に取り組んだ。	今後も臭気対策が適切に実施できるように水源調査等を継続する。	浄水課（水質管理室）
安全	安全で安定した水の供給	苦情発生件数（用水）	件	↓	97	84	8	0	0	活性炭を注入した時点で市町への情報提供とＨＰ掲載を行ったが、住民の多くは当庁ＨＰを閲覧されていなかった。	▲	原水にカビ臭が発生し、活性炭注入により水質基準（10ng/ℓ）を下回るよう適正処理したが、浄水処理後わずかに残留（最大5ng/ℓ）した。処理能力に限界があるため、ホームページでの周知に努める。	▲	苦情が出た８月は粉末活性炭を注入し水質基準値を満たしていたが、一時的な原水の濃度の上昇により苦情が出たもの。	▲	▲	かび臭物質の連続測定によりきめ細かな対応を行っているが、処理能力には限界がある。	令和６年度は苦情０件の見込みであり、今後も早期に原水のかび臭を検知し、粉末活性炭を適正注入し苦情０件に努める。	浄水課（運転監視係）
安全	安全で安定した水の供給	苦情発生件数（工水）	件	↓	0	4	0	0	0	苦情が出ないように、濁度および水素イオン濃度について、条例および運用目標を遵守している。	◎	水質に関し提供した情報が十分でなかったため、かえって工業用水の受水企業に不安を与える結果となった。	▲	濁度および水素イオン濃度について、条例および運用目標を遵守している。	◎	◎	濁度および水素イオン濃度について、条例および運用目標を遵守している。	今後も適正な水処理を行い、苦情０件に努める。	浄水課（浄水管理係）
強靭	施設の計画的な更新 水道施設の耐震化	浄水施設の耐震対策の進捗（用水）	箇所	↑	0	0	1	3	3	・吉川新浄水場建設工事、馬渕浄水場既設半系統の耐震補強工事を実施した。 ・馬渕浄水場・水口浄水場耐震補強設計業務を発注した。	◎	・吉川新浄水場建設工事を実施した（進捗率９割）。 ・馬渕浄水場と水口浄水場において耐震補強設計業務を完了した。	○	目標どおり吉川新浄水場建設工事を完了した。	◎	○	吉川浄水場は完了。馬渕浄水場は１系沈殿池を完了。 水運用による計画の見直しが必要なため、水口浄水場に着手できない。	令和６～12年度で馬渕浄水場、令和８～14年度で水口浄水場に取り組む。	計画管理室 施設整備課
強靭	施設の計画的な更新 水道施設の耐震化	ポンプ場の耐震対策の進捗（用水）	箇所	↑	6	6	6	6	7	南津田導水ポンプ場・朝国導水ポンプ場耐震補強詳細設計を発注した。	◎	南津田導水ポンプ場において耐震補強詳細設計を実施した。	○	目標どおり令和５年度までの耐震対策を完了した。今後令和９年度以降に南津田導水ポンプ場の対策を行う。	◎	◎	計画どおり令和５年度までの対策を完了した。	南津田導水ポンプ場につき、令和７年度からの基本設計を行い令和12年の完了に向けて取り組む。	計画管理室 施設整備課
強靭	施設の計画的な更新 水道施設の耐震化	管路の耐震化率（用水）	%	↑	39.1	40.7	42.0	41.2	50.5	・日野ライン・蒲生日野ライン管路更新工事の実施した。 ・中主ライン・竜王ライン管路更新詳細設計の発注した。	◎	・日野ライン、蒲生日野ライン、八日市蒲生ライン、中主ラインにおいて管路更新工事を実施した。 ・蒲生日野ライン管路更新詳細設計、長峰ライン基本設計を発注した。	○	・中主ライン、蒲生日野ライン、八日市蒲生ライン、竜王ラインおよび甲賀ルート（和田川水管橋）において管路更新工事を実施した。 ・日野ライン、長峰ラインの詳細設計を実施した。	◎	◎	計画通り整備を進めることができた。 事業の最適化を考慮したアセットマネジメント計画の見直しが必要	馬渕浄水場管内の管路更新を進めるとともに、新たに水口浄水場管内の更新にも着手する。	計画管理室 施設整備課
強靭	施設の計画的な更新 水道施設の耐震化	管路の耐震化率（工水）	%	↑	15.2	15.2	15.7	15.6	26.8	・多賀敏満寺ライン・湖南団地ライン管路更新工事の実施した。 ・湖南団地ライン管路更新詳細設計を発注した。	○	湖南団地ライン管路更新工事を実施した。	○	・湖南団地ラインにおいて管路更新工事を実施した。 ・竜王山之上ラインおよび栗東六地蔵における調査・測量・設計を実施した。	◎	◎	計画通り老朽管路の更新を進めることができた。 受水企業との制約が多く、円滑な更新のための調整が必要。	引き続き湖南工業団地の更新に加え、新規路線の整備を進める。	計画管理室 施設整備課
強靭	施設の浸水対策	浸水対策の進捗（用水）	箇所	↑	0	4	6	6	6	吉川浄水場・石部増圧ポンプ場・水口浄水場・朝国導水ポンプ場の対策工事に着手した。（吉川浄水場の浸水対策工事は翌年度に完了工期を延期）	○	・吉川浄水場、石部増圧ポンプ場、水口浄水場、朝国共同施設の工事が完了した。 ・馬渕浄水場、南津田導水ポンプ場の工事に着手した（令和５年度工事完了予定）。	○	目標どおり馬渕浄水場、南津田導水ポンプ場の対策を実施し、全て完了した。	◎	◎	令和５年度に全て完了した。		計画管理室 施設整備課
強靭	施設の浸水対策	浸水対策の進捗（工水）	箇所	↑	0	0	1	4	4	吉川浄水場・朝国増圧ポンプ場の浸水対策工事に着手した。（翌年度に完了工期を延期）	○	彦根浄水場および菩提寺加圧ポンプ場について、国庫補助金を活用するため、令和５年度の工事に変更し、早期発注に向けて準備を進めている（令和５年度工事完了予定）	○	菩提寺加圧ポンプ場は令和５年度に完了した。彦根浄水場は令和６年度の出水期までに完了予定。	○	○	彦根浄水場以外は、すべて完了。 彦根浄水場は令和６年度に完了予定。	引き続き彦根浄水場の浸水対策に取り組む。	計画管理室 施設整備課
持続	健全経営の維持	経常収支比率（用水）	%	↑	114.9	108.1	117.3	100以上	100以上	4,501,975千円 / 3,919,267千円＝114.9%	◎	4,402,568千円 / 4,071,924千円＝108.1%	◎	4,562,133千円 / 3,890,440＝117.3%	◎	◎	いずれの年度も目標値である100%以上を達成した。	引き続き100%以上を維持する。	経営課（財務係・経営企画係）
持続	健全経営の維持	給水収益に対する内部留保資金の割合（用水）	%	↑	210.1	166.4	145.7	100以上	100以上	8,709,171千円 / 4,144,843千円＝210.1%	◎	6,886,894千円 / 4,137,531千円＝166.4%	◎	5,995,704千円 / 4,114,867千円＝145.7%	◎	◎	いずれの年度も目標値である100%以上を達成した。	引き続き100%以上を維持する。	経営課（財務係・経営企画係）
持続	健全経営の維持	経常収支比率（工水）	%	↑	115.4	107.5	121.3	100以上	100以上	1,076,340千円 / 932,452千円＝115.4%	◎	1,051,674千円 / 936,478千円＝107.5%	◎	1,112,822千円 / 917,059千円＝121.3%	◎	◎	いずれの年度も目標値である100%以上を達成した。	引き続き100%以上を維持する。	経営課（財務係・経営企画係）
持続	健全経営の維持	給水収益に対する内部留保資金の割合（工水）	%	↑	545.4	517.1	465.8	100以上	100以上	5,186,872千円 / 951,086千円＝545.4%	◎	4,842,851千円 / 936,478千円＝571.1%	◎	4,458,232千円 / 957,192千円＝465.8%	◎	◎	いずれの年度も目標値である100%以上を達成した。	引き続き100%以上を維持する。	経営課（財務係・経営企画係）
持続	地域経済活性化への貢献	県内産バルブの使用率（共通）	%	↑	100	100	100	100	100	県内で生産されている規格のバルブを使用する工事については、全て県内で生産されたバルブを使用した。	◎	県内で生産されている規格のバルブを使用する工事については、全て県内で生産されたバルブを使用した。	◎	県内で生産されている規格のバルブを使用する工事については、全て県内で生産されたバルブを使用した。	◎	◎	県産バルブの使用を進めることができた。	工事発注時の総合評価方式で加点対象とすることなどにより、活用推進に取り組む。	施設整備課
持続	人材育成と技術継承	若手水道技術職員の資格取得件数（共通）	件	↑	4.6	4.3	4.2	4.0	4.5	・企業庁研修実施３箇年計画および資格取得３箇年計画を策定した。 ・３箇年計画に基づき本年度の実施計画を策定し、対象者に対して研修・資格取得を促し、ほぼ予定どおり取得できた。	◎	企業庁研修実施３箇年計画および資格取得３箇年計画の対象者に対して研修・資格取得を促し、概ね予定通り取得できた。	◎	・企業庁研修実施３箇年計画および資格取得３箇年計画の更新を行った。 ・３箇年計画に基づき本年度の実施計画を策定し、対象者に対して研修・資格取得を促し、概ね予定通り取得できた。	◎	◎	いずれの年度も目標値を達成した。	引き続き目標指標の堅持に取り組む。	経営課（総務係）
持続	環境に配慮した取り組み	過去５年間のエネルギー使用原単位変化率対前年度比（共通）	%	↓	-0.3	-0.6	0	-1	-1	・計画的更新に併せ高効率機器を導入しているが、目標達成に至る効果はなかった。 ・省エネに加え浄水場の特徴を活かした再エネの可能性について調査・研究を行う。	○	過去５年間において、大規模ポンプなどの更新工事がなく、水融通の適正化など運用面での改善を試みたが、１％以上の改善には至らなかった。	○	過去５年間において、大規模ポンプなどの更新工事がなく、水融通の適正化など運用面での改善を試みたが、１％以上の改善には至らなかった。	○	○	これまでから、高効率設備の導入や水融通の適正化など運用での改善を試みたが、１％以上の改善には至らなかった。	設備等更新時において効率の良い機器の採用、太陽光発電の導入検討を実施する。	浄水課（運転監視係）
持続	環境に配慮した取り組み	浄水発生土の有効利用率（共通）	%	↑	100	100	100	100	100	・浄水発生土は全て建設リサイクル土として有効利用した。	◎	・全て建設リサイクル土として有効利用した。	◎	全て建設リサイクル土として有効利用した。	◎	◎	全て建設リサイクル土として有効利用した。	全て建設リサイクル土として有効利用する。	浄水課（運転監視係）
持続	地域、社会の理解促進	水道事業見学者の理解度（共通）	%	↑	100	100	100	90	90	R3年度は一部の期間を除き、浄水場見学を中止した。代わりに動画ＤＶＤを作製し、受水市町管内小学校へ案内した。	◎	条件付きで浄水場見学を再開し、145人の受け入れを行った。見学終了後、理解できたか確認したところ全員が理解したと回答された。	◎	小学生および一般を対象に延べ1,228人の浄水場見学の受入れを行った。見学終了後に理解度を尋ねたところ、全員の理解が得られた。	◎	◎	コロナ後、見学者は順調に増加しているが、理解度の確認が口頭のみとなっている。	見学後、理解度確認を含めたアンケートを実施し、より充実した施設見学につなげる。	経営課（経営企画係）

赤：工業用水
青：水道用水
橙：共通

【評価】
◎：目標（以上）を達成した。
○：目標には達していないが、取組みが進んだ。
▲：目標と実績が乖離している。